

2017年2月11日(土)～12(日)

富士山五合目 雪山登山 (2230m)

～Report by yosimatu～

昨年夏に、クマさん会20周年企画として「一合目から登る富士山」に挑戦しました。その時宿泊してお世話になった五合目「佐藤小屋」のご主人から、小屋までなら冬でも比較的安全な雪山として楽しむことができることを聞きました。

クマさん会では初めての企画になりますが、チャレンジすることにしました。熊本さん、能勢さん、小野寺さん、中島さん、そして吉松の5人が、寒さ対策をしっかりとって挑戦してきました。



(中の茶屋まではタクシー利用、中の茶屋から馬返しを経て五合目「佐藤小屋」まで雪上を歩くルート)

2月11日 土曜日 快晴

ひと月前に佐藤小屋に予約を入れたところ、収容人数100名に対して既に90名ほどの予約が入っているとのことであった。この極寒の時期にどうしたことかと思案していたところ、神奈川県山岳連盟の冬季指導員研修会/講習会と日程がもろにぶつかってしまっていることが分かった。滑り込みで、我々5人の宿泊予約を押しこんだ。

二、三日前から西日本、日本海側に寒波が襲来して大雪の予報が流れた。心配になって前日にもう一度小屋に電話を入れて登山道の状況を確認したところ、雪は50センチくらい降り積もったが登り下りの登山客もいるので道を間違えることはなく、雪の踏み跡もしっかりついているとのこと。

ついでに「大広間での雑魚寝になりますか?」と聞いたところ、5人のために既に個室を準備しているとの返事であった。地獄に仏とはこのことかと胸をなで下ろし、現金なもので俄然元気が出てきた。

集合場所は富士急行 富士山駅、集合時刻は9時。万一の遅延があってもまずいので、高速バス使用は避けることにした。熊本さんと小野寺さんは、新宿から7時発のスーパーあずさ1号に乗り込み、能勢さんと吉松は同列車に八王子駅から合流した。元気な中島さんは一足早い列車で富士山駅に向かった。



車窓から見える田にも山にも新雪がうっすらと積もっている。特に樹氷は見事だ。



中央線大月駅で富士急行フジサン特急1号に乗り換えた。

中央線下りは何故か超満員であったが、こちらはガラガラだ。



フジサン特急1号の車窓から望見した富士山は素晴らしい。

頂上付近は風がかなり強いようで、強風に吹き飛ばされて雪煙が激しく舞っている。





フジサン特急1号は8時52分に富士山駅に到着。

一足早く着いていた中島さんが、今や遅しと我々4人を待っていてくれた。



早速、富士山駅前で9時に予約をしていた富士急山梨ハイヤーに乗り込み、雪の積もった吉田口登山道をタクシーで行けるギリギリの「中の茶屋」まで移動。

霧氷のトンネルが大変幻想的だ。



中の茶屋に向かう車は我々の乗ったタクシーだけで、20分も経たずに到着。

早速アイゼン装着に取りかかった。



9時半に雪上を歩き始めた。

風は結構あるのだが、樹林に遮られて我々にはあまり感じない。空には雲一つ無く木漏れ日はかなり強烈だ。





10分も歩かないうちに身体がかなり暑くなってきた。

極寒の登山で汗をかくことは御法度なので、早速着衣の調節をした。



小一時間ほど歩いたところで大石茶屋跡（1300m）に到着。かつてはレンゲツツジが見事な場所だったそうだ。

（写真下；大石茶屋と書かれたバス停標識）



大石茶屋跡で小休止をとった後、馬返しに向かった。

気温は零下なのだが、日差しが強く風も直接受けることがなくて心地よい。



11時、馬返し（1450m）到着



順調な歩みで馬返しには予定より20分ほど早く着いた。
零下の気温だが、日差しを受けていれば暖かい。



少し遅れて10人ほどのグループが馬返しに来たが、聞けば佐藤小屋の予約が取れずテント泊とのことだった。
我々は一寸の差で佐藤小屋に予約がとれたようだ。



馬返しで、一息入れ水補給も済ませた。
小野寺さんが持参した水筒用チューブは細いために凍り付き、既に役に立たない。

11時10分、鳥居をくぐっていよいよ富士山の聖域に入っていくことになった。



馬返しから標高差70mしかない一合目（鈴原天照大神 1520m）まではすぐであった。





朝が早かった所為で少々腹が減ってきた。小野寺さんは早くも歩きながらパクっている。一合目五勺の標識（写真上）は横目に見ながら二合目（写真左）へと急いだ。



12時過ぎに二合目（1700m）到着

早速持参の昼食を食べることにした。ここでの気温は零下9度。能勢さんが振る舞ってくれた赤ワインがことの外うまく、お腹から身体を温めてくれた。



あまりの寒さに食後の休憩をゆっくりとる余裕は無い。そそくさと二合目を後にした。

30分ほどで三合目見晴台（1840m）。



佐藤小屋情報では、ここ二、三日で50センチほどの積雪があったとのことだったが、登山道はよく踏み固められていて歩きやすかった。この時期にしては多人数の団体が佐藤小屋を目指したからだろう。

1時40分頃、四合目大黒小屋（2010m）に着いた。



四合目からの眺望は素晴らしい。河口湖と河口湖町が眼下に広がり思わず感嘆の声が出た。

（佐藤小屋に宿を取ることができなかった一行は、四合目の一角で一泊するようだ。みんなでテント張りの作業に取りかかっていたが、想像するだけで寒かろうと思い身震いがした。）



四合目から先は意外と長い。

五合目の標示が出たと思って安心すると騙される。その先にも五合目の標示が出てくるからやっかいだ。

我々は昨年夏に同コースを登ったばかりだったので、簡単には騙されない十分な気持ちの準備ができていた。



出た！五合目「御休憩宿泊所」

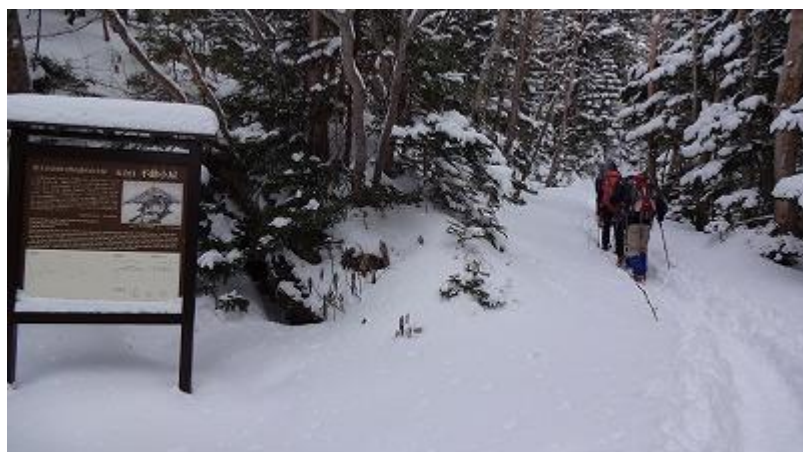
「五合目焼印所」の看板も出ている。昨年、吉松は「やきたまごどころ」と読んだ。「山で焼き卵とは？」、と暫く不思議がっていたら、皆から嘲笑を浴びた。





20分も歩くと、また出た五合目「早川館」

江戸時代から続く山小屋がここにあったのだそうだ。



10分足らずで、またまた五合目「不動小屋」

こちらも江戸時代からあった山小屋跡だ。



やっとのことで、雪に覆われた自動車道に出た。ここまで来れば佐藤小屋は近い。

高度が上がり、気温は零下10度以下になった。ペットボトルの水が凍り始めた



車道沿いに歩くと、鳥居の脇に佐藤小屋へ続く登り口がある。





やっと樹木の間から小屋が見えてきた。今日お世話になる佐藤小屋（2230m）だ。



15時過ぎ、佐藤小屋に到着した。小屋に入ると暖かさが冷え切った身体に何よりのご馳走だった。佐藤小屋は神奈川県山岳連盟の皆さん80人ほどで超満員。外にはアイゼンやかんじきが、所狭しと並べてあった。



幸いに小屋の主人（元気で威勢のいい女主人）の心遣いで、我々には個室を2部屋準備してくれていた。



小野寺さんと中島さんで四畳半一室。熊本さん、能勢さんと吉松の3人で四畳半一室を占有する贅沢さ。

実に有り難い。

ゆっくりと登山道具を片付けてから食堂に移動。

これも小屋の主人のご配慮で、食堂奥には我々5人分のためにテーブル席が用意してあった。しかも、缶ビール一缶の差し入れまでいただいた。「山小屋の予約は吉松に限る」、などとおだてられてしまう始末となった。

5人は、早くも持参のつまみと、ビール、ワイン、焼酎で酒盛り。程よく酔いが回ったところで、男性3人にとってこのところすっかり縁遠くなった「バレンタインチョコのプレゼント」が中島さんからあった。

（ホーラ、山に登れば、こんなことだってあるのだぞー。）





中島さんから、男性陣への
バレンタインチョコプレ
ゼント

疑うクマさん会メンバー
もいそうなので、証拠写真
を一枚

5時になったら他の泊まり客を尻目に一番乗りで夕食にありついた。結構なお味でした、ご馳走さま～。



食事も済み暫し広間のこたつに潜り込んで歓談。外の寒さと裏腹にここだけは暖かくて天国だ。



空気が澄んでいるので五合目から見る河口湖町の夜景と冬花火は超ど級の感動ものだ。



[花火の動画はこちら](#)

今日は雪山を五時間も歩きました。クマさん会のこれまでの雪山登山のなかで、最も長時間歩いたかもしれません。零下 10 度の中を五合目まで登ってきましたが、幸い天気恵まれて快適でした。

五時間も歩くとさすがに疲れもたまり、お酒が入って早々と睡魔が襲ってきました。宿で湯たんぽ借りたりして暖をしっかりと取って、三々五々布団に潜り込みました。

心地よく見る夢は、やはり下山後の暖かい温泉と乾杯のビールでした。